



北空知におけるCOVID-19 関連状況について

深川医師会 会長 松本 三樹

令和3年8月31日現在の北空知における COVID関連の状況をお知らせいたします。

ワクチン接種に関しては、深川市以外の 5 町(妹背牛町、秩父別町、北竜町、沼田 町、雨竜町)において、12歳以上の全ての 年代で希望者の2回目接種がほぼ終了して います。深川市においても、60歳以上では 「対象者」の87%が2回目接種を終えてお り(1回目接種率は91%)、50代では65% (同81%)、40代では44% (同71%)、30代 では26% (同62%)、20代では23% (同54%) が2回目の接種を終えています。10代に関 してはまだ始まったばかりですが(2回目 2%、1回目7%)、総じて北空知におけ るワクチン接種の進捗状況は良好といえま す。行政の担当者および医師会会員の皆様 のご尽力に敬意を表する次第です。なお、 深川市の集団接種は9月下旬で終了し、以 後は主に10代を対象とした小児科医・内科 医による個別接種が中心になります。

北空知の感染者数は、8月30日の道庁の発表によれば直近3週間で計18名(深川市12名)であり、少しずつ増加しています。札幌や旭川などの特定措置区域に比べれば圧倒的に少ないとはいえ、私どもの病院でも職員の同居者が職場等で濃厚接触者に該当するような事例が増えており、院内感染予防のためにより注意深い対策が必要になっています。

患者の治療は32床の受入可能病床をもつ深川市立病院が行っています。同院と保健所の話し合いにより「感染者は全て入院」の方針ですが、使用病床が20床を超えた場合には宿泊療養や自宅療養の検討が必要になるとのことです。1~2類相当の指定感染症と自宅療養が馴染まないのは自明ですが、この問題の解決のためには初期治療が行える薬剤の開発に加えて、「現場の医療従事者の視点が反映された治療体制の整備が不可欠なのだろうな」と管見ながら考えています。



子犬のしつけ

上川郡中央医師会 会長 藤原 正文

生後3ヵ月のイングリッシュ・コッカー・スパニエルを連れて、しつけ教室に3ヵ月間ほど毎週通った。その前に飼っていた生後2歳のイングリッシュ・スプリンガー・スパニエルの子犬を、動物保護団体に引き取ってもらった、という反省からである。問題行動は、外科的処置を必要とするほど手を強く噛むことである。ブリーダーや保護団体の人には、噛みつくのは権勢症候群のためで、しつけ方が悪く、甘やかしすぎたからだと言われた。

権勢症候群とは、犬は家族の中で自分の 序列を上げて、リーダーになろうとする本 能があり、そのため、甘やかすと犬が優位 な立場となる状態のことで、攻撃して噛み ついてくるなどの問題行動を起こす原因と 考えられてきた。したがって、しつけ方法も、 人が優位であることを厳しく教え込むやり 方が推奨されることが多かった。ただ調べ てみると、現在では学術的にも権勢症候群 という概念そのものは否定されている。

今回受講したパピー教室で教えられたしつけ方は、簡単に言うと、とにかくほめるという方法である。犬が望ましい行動をとったらおやつをすぐ与えて、ひたすらおおでもにほめる。犬の名前を呼んで、飼い合うとおやつを与える。他の犬がなかくを歩いたりしても、じっとして、いい子」となでる。小さなおやつをたくさん用意して、言葉でもほめる。それをなんども繰りて、言葉でもほめる。それをなんども繰りて、言葉でもほめる。それをなんども繰りにとって都合のよい行動を導く。

パピー教室は生後6ヵ月で終了した。トイレトレーニングはトイレシーツにできるようになった。ただ、すぐトイレシーツの上に行き、ほんの少しずつ何回も排泄をして、その都度こちらを向いておやつを要求するようになってしまった。散歩に行ってもリードを引っ張って自分が先に行ったり、窓から外を見て無駄吠えをするなど、まだまだしつけが必要な点がある。しかし、今のところ、手を噛まれることはない。